

平成24年度 第3回 平塚市図書館協議会 会議記録

開催日時 平成25年3月21日（木）14時00分～14時30分

開催場所 平塚市中央図書館 会議室

出席者 会長 村山 真由美

副会長 小林 美和子

委員 磯部 博之、諸山 朝子、中野 威、高橋 麗奈

事務局 後藤社会教育部長、和田中央図書館長、池田北図書館長、
桐山西図書館長、富田南図書館長、飯田管理担当長、菊坂奉仕担当長、
加藤主管

傍聴人 なし

会議の概要

- 1 開会あいさつ 和田中央図書館長
- 2 会長あいさつ 村山図書館協議会長
- 3 議 題

(1) テーマ「平塚ならではの市民にとって利用しやすい図書館」について

ア 報告書のまとめについて

事務局 （報告書案を読み上げ）

報 告 書

「平塚ならではの市民にとって利用しやすい図書館」について2年間にわたり検討を行った結果、次のとおり意見がありましたので報告します。

平塚市の公共図書館の役割として、単なる貸出中心の施設や娯楽施設にとどまらず、郷土の資料など、今までに収集してきた資料を専門職員の司書が効果的に紹介・提供していくことが必要とされています。

そこで、市民にやさしい図書館像として、「平塚ならではの市民にとって利用しやすい図書館」について、レファレンスに関する取組、ホームページの活用を中心に話し合ってきました。

その中で、個々の具体的な取組等について、各委員から出された意見を次のとおり列記いたします。

1 「レファレンスに関する取組」について

レファレンスサービスについて、なじみのない方のために参考室にわかりやすく掲示を行っているが、さらに能動的な発信を行う。館内での展示やホームページ上でのよりわかりやすい案内に加え、個人情報や著作権に配慮したうえでデータベース化したレファレンス記録をQ&A方式等に編集して公表することにより、レファレンスサービスの認知度をさらに高める。また、インターネットからのみでなく図書館のレファレンスサービスを利用することで、より正確で信ぴょう性の高い情報が得られることや情報の探し方の多様性をアピールする。また、図書館と

他の機関とのつながりを紹介し、児童向けには、ポスターの作成、ホームページで公開している機関誌「こどもきいぶ」に調べものに関する記事を掲載することでアピールし、わからないことは図書館で調べるといった方法を知ってもらう。

図書館イベントへの応用としては、小学生向けの「一日図書館員」や「おかあさんのための図書館体験」で行っている「調べものクイズ」が好評なので、レファレンスというものを身近に感じていただくために、「市民の図書館体験」に組み込んでいく。

2 「ホームページの活用」について

知りたい情報をわかりやすく案内するためにトップページを構成する。コンテンツの充実として、資料の電子化については今後「平塚ならではの」という観点から郷土を知ってもらうため、地域にゆかりのある著者の作品などから進めていく。

以上、この報告書案をベースとして、皆様から御意見をいただき、報告書を完成したい。

委員 異議なし

(2) その他 (前回協議会の委員からの提案への回答)

ホームページのアクセシビリティについて

事務局 スマートフォン対応について、当館のシステムを担当している業者に問い合わせた。

第1の問題点として、スマートフォン対応にするには、ホームページをすべて作り直さないといけない。

第2として、図書館独特なものとして、蔵書検索の画面があるが、職員業務のシステムと連動しており、通常のホームページと異なる部分があり、スマートフォン対応への改造に非常に手間がかかり、今すぐに変更ができない。

これらは、3年後に、5年毎のシステムの入替えを予定しており、全庁的なアクセシビリティの向上の目標もあるので、それに合わせて次回に対応できるようにしたい。それまでは、前回協議会でいただいた、ホームページのリニューアルが難しければ内容の充実に力を入れてはどうか、との提案のとおり努力したい。

また、利用者が入力して検索キーワードがチェックできるという話があったが、当ホームページに当てはめて利用できるか確認をしている。これについては、キーワードが把握できるのであれば、利用者のニーズを掘り起こせるので、どのようなコンテンツが必要とされているのかを考えて充実させていきたい。

機関誌「こどもきいぶ」の配布について

事務局 こどもきいふの配布は、ホームページで公開しており、紙での配布を取りやめているが、実際に手に取って見える紙で用意した方が良いとの御意見があったので、小学校については全校に配布することとした。

会長より閉会宣言があった。

以 上